



**令和4年度マイスター・ハイスクール事業
福井県立若狭高等学校**



「自分たちで授業やカリキュラムを創る」Well-being カリキュラム生徒実行委員による授業づくり(地元学2022.10.22)

事業名

若狭地域のWell-beingを実現するために地域水産業の成長産業化に貢献できる人材育成のための水産海洋教育カリキュラム開発



Well-being生徒実行委員によるカリキュラム検討



宇宙サバ缶詰の地上商品化



地元漁協とのフナ缶詰開発

事業の概要

1

若狭地域のWell-beingを実現できる人材育成のため、目標設定・カリキュラム改善・評価を実施する

2

高大接続に向けた課題研究の強化、及び、学科設定科目の開設

3

ICT等を用いた最先端水産技術を学び、課題研究等で水産関連商品開発を行う

4

台湾等と海洋問題及び水産海洋教育カリキュラムの共同研究を実施

5

小中学校への水産海洋教育の推進

1 水産業発展を含む若狭地域のWell-beingを実現できる人材育成のため目標設定・カリキュラム改善・評価を実施する



Well-beingについての研修会

R3年度

- ① 関西大学教授 草郷 孝好 氏との打ち合わせ
- ② Ocean Well-being生徒実行委員結成(13名)
- ③ Well-beingについての研修会
- ④ Ocean Well-being生徒実行委員によるインタビュー調査 問い:よく生きるとは何か?
- ⑤ 第1回Well-being検討会
～私たちのWell-beingとは何か～
台湾暖暖高中級学校とのオンラインによる研究発表と3年間の探究学習後の学びについて互いに報告、質疑応答



R4年度

- ① インタビュー調査結果を分析し、Well-Beingになるための資質能力・知識技術の検討（目標の検討）
* 教員・地域住民・業界・Ocean Well-being生徒実行委員で検討
- ② 対話のスキルと理論研修・先進事例見学（新潟大・ハワイ大学）
- ③ Well-being フィールド研修会（小浜市10月22・23日実施）
* Ocean Well-being生徒実行委員・地域住民で検討
- ④ 来年度マイスター学校設定科目に向けての検討

今後（来年度）の予定

- ① Well-being 評価の実施
- ② マイスター学校設定科目実施

2 高大接続に向けた課題研究の強化、及び、学科設定科目の開設



大学の授業の視聴



アユ人工授精

実施内容

① 高大接続会議

高大接続会議を毎年福井県立大学様と開催。
今後の方針を互いに確認する。

② 施設相互利用

先端増養殖科学科の実習に雲龍丸を使用。
海洋環境工学実習に雲龍丸を使用。

③ 大学主催アユの産卵場整備

福井県立大学田原教授主催→今年度は雨天中止

④ 県立大教員による課題研究への助言・指導。

多数の先生から助言を頂いている。

今後の予定

① 大学教授によるデータサイエンス授業

統計の授業を福井県立大学 富永教授よりしていただく。(12月19日～23日)

② 施設相互利用

「水産海洋基礎」において、アユについての講義。また、大学の実習に雲龍丸を使用。生徒がインターンシップで参加。

③ 大学主催のサケ産卵観察会に参加

福井県立大学 田原教授主催の観察会に参加。

④ 入試制度について

現在実施している事業やイベント等が評価の対象となる入試を導入するかどうかを福井県立大学内で検討していただくことになった。

3 ICT等を用いた最先端水産技術を学び、課題研究等で水産関連商品開発を行う

実施内容

- ①「雲龍丸」にてICT機器を用いた最先端の沿岸海洋観測実習とデータ解析
(CTD・クロフィル・透明度・測深・流速・濁度・採泥)
- ②新商品の開発(2年目で3品目達成)
 - ・地上販売用宇宙食サバ缶詰製品化
 - ・海洋プラスチックを使用した「Ocean箸」販売
 - ・三方五湖寒ぶな缶詰製品化



4 台湾等と海洋問題及び水産海洋教育カリキュラムの共同研究を実施



R3 Ocean Well-being 発表会

実施計画

- ① 第一回Ocean Well-being発表会
本校3年生と台湾暖々高中学校の生徒が、それぞれの研究発表を行い、課題研究で得られた資質能力について共有。
 - ② 第二回Ocean Well-being発表会
本校2年生と台湾暖々高中学校の生徒がそれぞれの研究発表を行う。
- ①、②を実施したのち、本校と台湾暖々高中学校の教員で以下のことを実施する。
- ・教員同士のOcean well-being発表会振り返り
 - ・教員同士の授業互見
 - ・国際交流を通して身につく力の分析
 - ・目標設定、評価方法の検討

5 小中学校への水産海洋教育の推進

小型実習船「雲龍丸」の活用





雲龍丸の操船体験



水中ドローンを操作する小学生

実施内容

- ① 小中学生体験航海(5~10月の平日)
29航海(中学校1航海):児童646名
- ② 一般体験航海(夏休み中の土日に実施)
12航海:大人115名、児童41名
- ③ 中学校教員を対象とした職業系高校見学会
9校、17名の中学校教員参加
- ④ 小中学校との連携
10校の小中学校と課題研究発表等の交流



小学校への出前授業



今後の予定

① 雲龍丸体験航海

- i アンケートを細かく分析し、実施内容を改善。
- ii 県民への一般体験航海実施広報の方法を更に広げる。
(各市町の記者クラブへの周知、新聞、ケーブルテレビに加え、今年度は、各市町の公民館にチラシを配布した。)

② 中学校教員に対する説明会

今年度はアンケートを実施し、来年度に反映する。

③ 小中学校との連携

早期に計画立案

若狭高校の特徴

1 運営委員会・事業推進委員会の在り方

① 「運営推進委員会への生徒参加」

マイスター・ハイスクール事業→**生徒主体の事業**

- i 同じ目線に立ち、生徒の意見を受け入れ、反映する
- ii 事業に関わってくださっている委員の方々の熱意が伝わる



生徒60名

運営委員

推進委員

「指導」から「支援」へ

2020年

生徒指導部



生徒支援部

- ・校則違反取り締まり？
- ・警察？
- ・あれダメこれダメでは自律しない

- ・充実した学校生活を送るためのサポートへ
- ・応援団組織
- ・生徒が中心



進路指導部



CSC

キャリアサポートセンター

生徒中心のスクールミッション

生徒主導 スクールミッション作成

中森校長

中森校長

保護者

生徒

PTA
会長



完成したスクールミッション

【スクールミッション】

生徒間の交流やグローバル(グローバル+ローカル)な交流を通して主体性を発揮し、以下のような人となることを目指す。

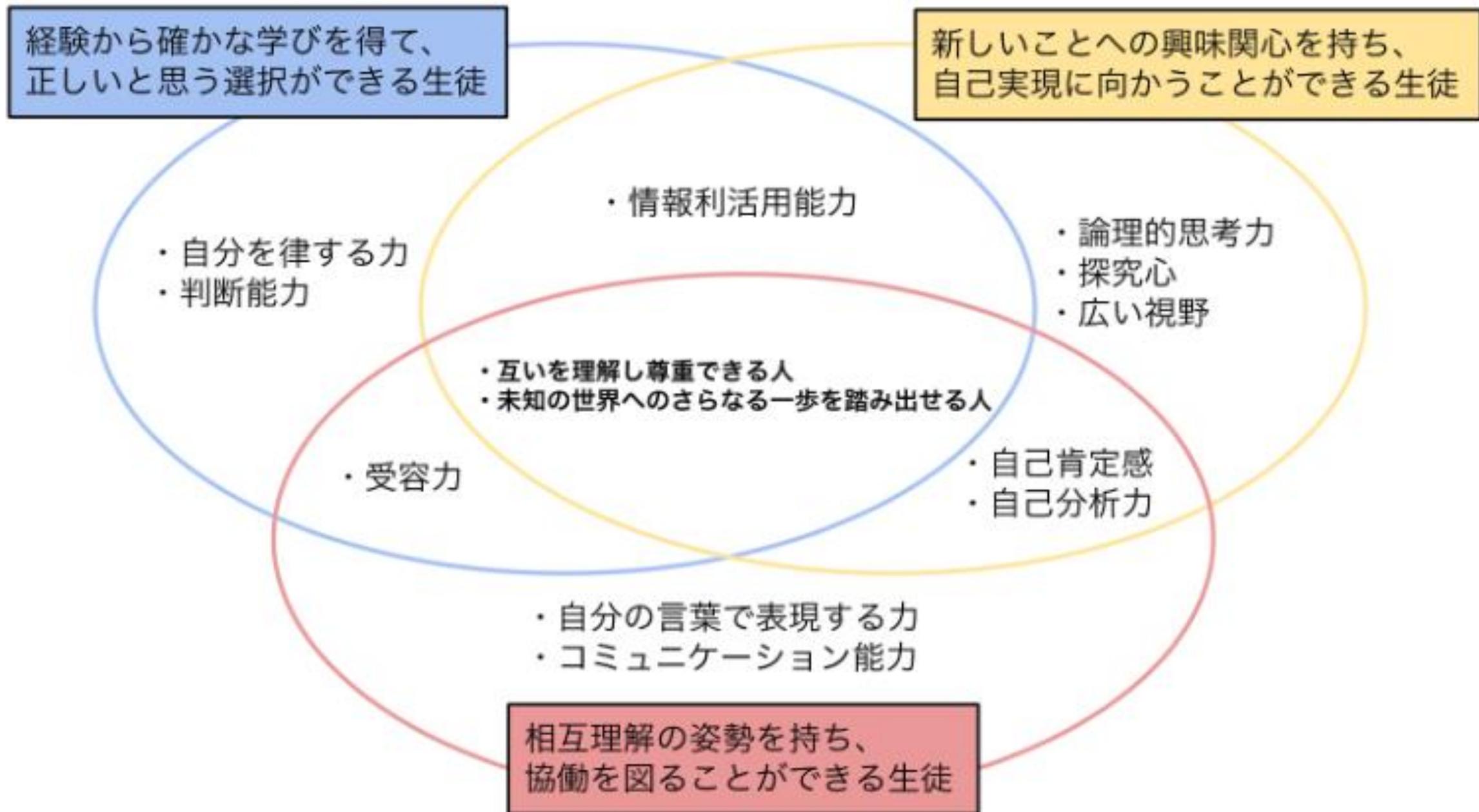
- ・互いを理解し尊重できる人
- ・未知の世界へのさらなる一歩を踏み出せる人

完成したスクールポリシー

【グラデュエーションポリシー】

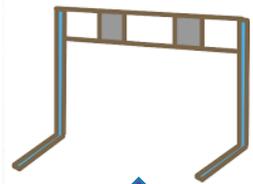
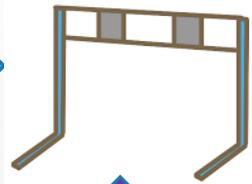
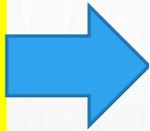
- ・相互理解の姿勢を持ち、協働を図ることができる生徒
- ・新しいことへの興味関心を持ち、自己実現に向かうことができる生徒
- ・経験から確かな学びを得て、正しいと思う選択ができる生徒

以下の資質・能力を養う

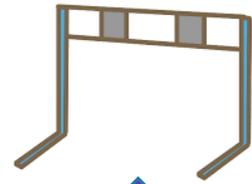
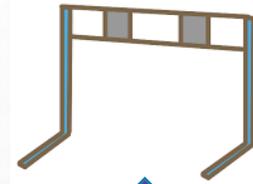
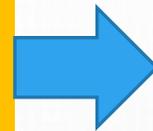


課題研究における「指導」から「支援」は

生徒の興味
関心が大切



テーマの
設定



研究の
方法

支援

支援

支援

支援

いいね！ おもしろそう！

質問！ 確認！ それで大丈夫？ 続けられる？

成果は役に立つ？ どんな機材が必要？

地元企業や大学教授の仲介！

それをやって自分が楽しい？

② 研究協働会議



研究協働会議

運営・推進委員に生徒の研究内容を見ていただき、アドバイスをいただく。

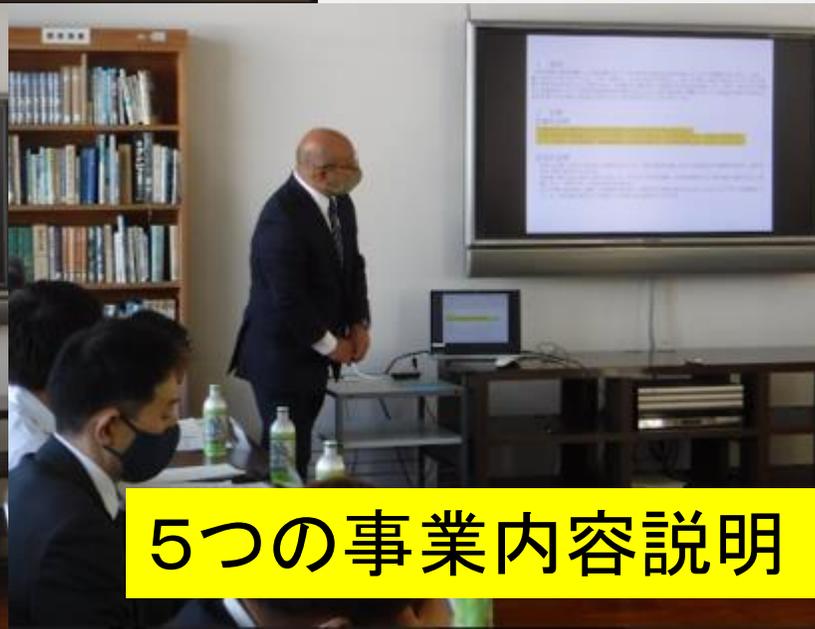
委員にも当事者意識が醸成され、支援の充実につながる。

委員は、生徒の取り組み内容を把握でき、第2回、3回の委員会で生徒の成長を実感することが可能となっている。

③ 5つの事業内容を評価



5つの事業内容についての評価を実施し、事業に関わるOcean Well-being発表会や研修会に参加していただき、目標設定やカリキュラム改善に加わっていただいている。



5つの事業内容説明

2 教員の取り組み姿勢



教員によるミーティング



- ① 教員コミュニティの形成を意識
教員は毎回集合し、目標の共有、班での問題や進捗状況、今後のスケジュールを確認し、共通認識の下で活動している。
- ② 生徒の主体性を重視し、支援の姿勢で生徒のアイデアを引き出している。
 - i 目標「課題設定能力」に準拠した指導
 - ii 地域との連携の設定
 - iii 生徒の興味関心の明確化



3 地域との関わり方

① 実務的な会議

生徒をどのように育てていくのか目標を共有した上で委員としても参加していただいている。

② 地元企業の問題を共有

生徒が研究内容を設定する段階で、地元の問題を深く把握するための支援が可能である。



小学校へ出前授業

③ 小中学校の海の学びの拠点

本校生徒が地域の小中学校で出前授業を実施、総合や研究活動の指導者として支援を実施している。



4 運営について



- ① CEO、産業実務家教員による進路指導
研究活動のみならず、3年生の進路指導も担ってもらっている。
- ② 地域の方々と次世代を育成することの目的を共有
学校統廃合時(平成25年)の委員として海洋科学科の目標設定から関わっていただいている関係が運営の土台となっている。

